

◆◆◆ 気象庁、平成20年度補正予算要求の概要を発表

9月29日(月)、気象庁から平成20年度補正予算の概要が発表されました。これは8月29日に政府によって取りまとめられ「安心実現のための緊急総合対策」として策定されたなかの経済対策の一環として、気象庁は次の2つの事項を対象として総額29億円の予算を要求しています。

- (1) 近年地球温暖化の影響による短時間強雨が頻発化し、全国各地で集中豪雨や局地的大雨による被害が多発しつつあることから、気象ドップラーレーダーの整備(既設レーダーをドップラーレーダーに更新)の推進と各レーダーの観測頻度を今までの2倍(10分間隔→5分間隔)に能力アップするための整備を行う。 21億円
- (2) 大地震発生に備え、計測震度計の処理部の更新や計測震度計の精度を検定するための検定装置の更新などの震度観測体制の強化 8億円

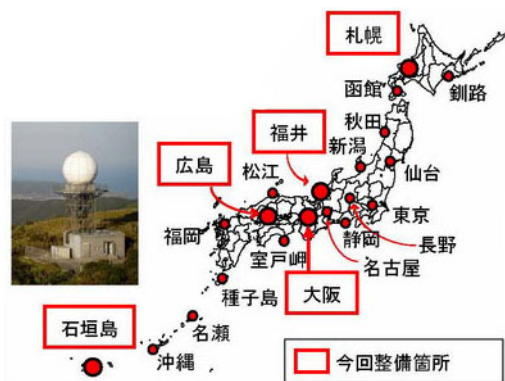
【気象ドップラーレーダーの整備 21億円】

①気象ドップラーレーダー整備の推進 (5箇所)

(参考) 気象レーダーの現状

- ドップラーレーダー: 11箇所
- 通常レーダー: 9箇所

②観測頻度を2倍(5分間隔)に能力アップ(全国20箇所)



【震度観測体制の強化等 8億円】

①整備後13年を経過した計測震度計の処理部を更新(東京、大阪管内220箇所)

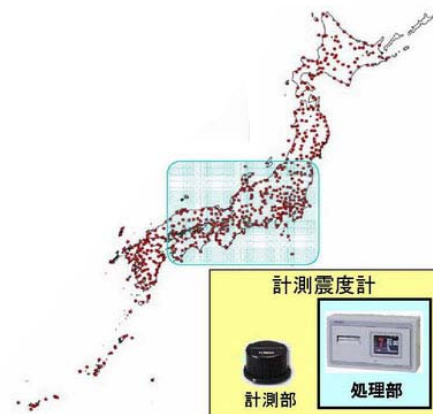
<年次計画>

平成19年度整備: 札幌(47箇所)、仙台管内(60箇所)

平成20年度当初: 福岡(61箇所)、沖縄管内(9箇所)

平成20年度補正: 東京(132箇所)、大阪管内(88箇所)

②計測震度計の精度を検定するための全国唯一の検定装置の更新



(気象庁ホームページより)